

京都市子どものための市民憲章懇話会ニュース No.5 平成19年1月

発行:京都市子どものための市民憲章懇話会事務局 (京都市保健福祉局子育て支援部児童家庭課 / 京都市教育委員会生涯学習部)
TEL:251-2380 FAX:251-2322 / TEL:222-3590 FAX:222-2061

629名の参加者による熱気溢れる意見交流会とシンポジウムを開催しました！

「子どものための市民憲章」意見交流会

日	場所	対象行政区・地域(目安)	参加者数
11月10日(金)	呉竹文化センター	南・伏見・深草・醍醐	59名
11月13日(月)	北文化会館	北・上京・中京・下京	82名
11月14日(火)	国際交流会館	左京・東山・山科	78名
11月15日(水)	西文化会館ウエスティ	右京・西京・洛西	60名

(時間はいずれも午後 7 時～8 時 45 分, 参加者 計 279 名)

<次 第>

- 1 開会挨拶(プロジェクトチームリーダー)
- 2 子どものための市民憲章素案の説明
(サブリーダー)
- 3 市民憲章懇話会委員の紹介
出席委員 (複数出席を含む・敬称略)
日下部・寺田・久保田・高林・長者・辻・
中川・西川・西脇・藤田・水野・西岡委員
- 4 各グループで意見交流
- 5 閉会挨拶 (サブリーダー)



<概 要>

行政区・地域別のグループに分かれ、懇話会委員にも加わっていただき、子どもを取り巻く様々な問題を踏まえつつ、憲章素案の内容や項目について話し合うとともに、憲章を契機とした具体的な行動化に向けて活発な意見交流が行われました。

全体として良く練られた素案であるとの意見をいただきました。また、「大人や企業の責任」「家庭や地域での人のつながり」「親への働きかけの必要性」等、懇話会での議論の内容と重なる意見が多く出されました。

「子ども用と誤解されない名称に」「具体的な行動をイメージしやすいものに」「行動理念の項目はもっと絞った方が良い」等、憲章から具体的な市民の行動につなげていく立場からの御意見もいただいております。



憲章を行動規範として共感する輪が広がっています！

11月25日(土)には、市民350人参加の下、市民憲章を考えるシンポジウムを開催しました。懇話会委員から憲章素案の作成に携わってきた熱い思いが語られるとともに、会場の若者からも意見が出されるなど、憲章を行動規範として共感する市民の輪が広がっていることを感じさせました。

基調報告 京都市子どものための市民憲章懇話会会長：藤原勝紀 京都大学大学院教授

子どもの状況は、即ち大人の状況である。心よりも物で人間関係を構築しがちな現代、人と人が共に生きることを見つめ直し、心の力で子どもの笑顔を取り戻すために皆様と取り組んで参りたい。



パネルディスカッション パネリスト：日下部・寺田・岡本・久保田・高林・長者・辻・中川・西岡・西川・西脇委員

- ・人は、人の中でしか育たないことに多くの方が気付いてきた。憲章づくりを契機に、私たちの社会や大人のあり方を警鐘したい。
- ・家庭や地域のつながりが弱くなり、子育てを支えてきた文化を失いつつある今、子どもが子どもらしく生き、すべての人が人間らしく生きられる社会の仕組みが必要である。
- ・子どもたちの健全育成のために、遊びを通して様々な体験や触れ合いができる環境を大人が責任を持って作っていくことが重要である。
- ・大人が本気で向き合えば、子どもは変わる。憲章の理念が京都の子育ての根底となり、京都は温かく子どもをしっかりと育ててくれると実感できるまちになればよい。
- ・子どもが安らぐ家庭と家族の絆を大切に、週に数回でも家族全員で食事をして1日の出来事などの会話を交わし、愛を育み、子どもの変化に気付いてほしい。
- ・温もりのある地域づくりをめざして、時代に関係なく失ってはいけない大切な当たり前のことは、勇気をもって家庭や地域で発信していかなければならない。
- ・今も昔も子ども自身は変わっていない。変わったのは子どもを取り巻く大人と環境ではないか。子どもと共に歩む気持ちの大人が増えれば、もっと面白い明るい世の中になる。
- ・今は放っておいて子どもが育つ環境ではない。「子どものため」を考えることは大人のためでもあり、社会全体を考えることになることを、広く市民に理解していただきたい。
- ・生涯学習の究極の目的は、我々個人が成長することで社会を変えることである。私たちが取り組んできたことを結実させて、人が人を育てられる憲章にしていきたい。
- ・保護者は毎日の子育てに精一杯で、なかなか地域にまで目が行き届いていないのが現状であるが、その部分に少しでも目を届かせることができるような憲章になればよい。
- ・子育て中の保護者の声も聞きながら、地域社会の中で子育てを支える仕掛けをいかに作ったらよいのか、皆様から色々とお寄せいただければと思う。



会場参加者の意見

- ・この憲章を、あまり教育できない親や教育現場に広めていただきたい。子どもたちや若い親がこれからの日本、世界をつくっていく人たちであるので、憲章だけでなく、それを実行するための制度を整備しなければならない。

<会場参加者からの意見を受けて藤原会長から>

- ・若い人から積極的なお話をいただき、本当にありがたく思った。お礼申し上げるとともにこれからも一緒に頑張っていきたい。(会場から拍手)

